

地震への備えを進めるため ご活用ください あなたのまちの地域危険度



1面でご案内した地震ハザードマップに掲載している「地域危険度」は、大地震が起きた際の家屋の倒壊や火災の危険性などを調査し、町丁目ごとに5つのランクで評価したものです。

今回の改訂版は、昨年9月に東京都が公表した第7回地域危険度測定調査に基づいて作成しました。

建物倒壊危険度

地震の揺れによる建物の倒壊や傾きの危険性を示したものです。

地域の建物の種別と地盤の分類によって測定しています。

火災危険度

地震時に発生した火災の延焼による危険性を示したものです。

出火や延焼の危険性を基に測定しています。

総合危険度

地震の揺れによる建物の倒壊や火災の危険性を1つの指標にまとめた総合的な危険度を示したものです。

災害時活動困難度を考慮した地域危険度

大地震により建物が倒壊したり火災が発生したときには、そうした危険な地域からの避難や消火・救助活動のしやすさ（困難さ）が、その後の被害の拡大にも大きく影響します。

今回の都の調査では、災害時の救助活動などの困難さを示す「災害時活動困難度」を考慮した危険度を新たに測定しています。

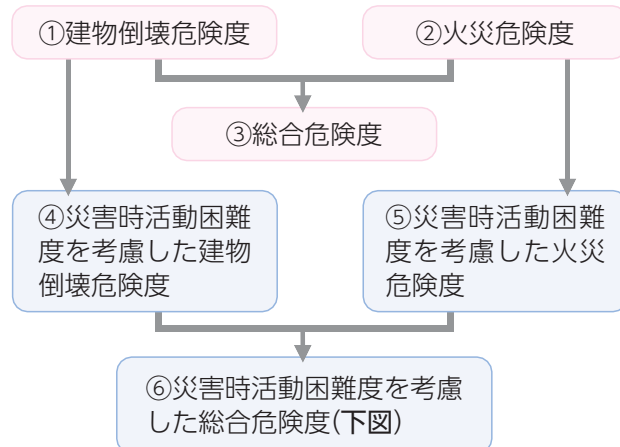
各地域の道路の幅や密集具合、道路基盤の整備状況などから測定し、建物倒壊危険度、火災危険度、総合危険度に反映しています。

新宿区地震ハザードマップは、2月17日(月)から、建築指導課(本庁舎8階)、危機管理課(本庁舎4階)、区政情報センター(本庁舎1階)、特別出張所で配布します。新宿区ホームページでもご覧いただけます。

【問合せ】建築指導課構造設備担当(本庁舎8階)

☎(5273)3745・FAX(3209)9227へ。

地震ハザードマップには6種類の地域危険度を掲載しています



災害に強いまちを目指して

危険度の高い地域は、建物の耐震性の向上などの防災対策を総合的に進めていく必要があります。

また、日ごろから、災害時の避難経路・避難場所を確認したり、防災訓練を実施して地域の初期消火態勢を強化するなど、自助・共助の取り組みも大切です。

災害時活動困難度を考慮した総合危険度

消火や救助活動の困難さを考慮することで、大通りに面した消火・救助活動がしやすい地域は危険度が下がっています。また、道路が狭く消火・救助活動が困難な地域は危険度が上がっています。

